

November 18, 2020

【前日の為替概況】ドル円、4日続落 米小売売上高が予想を下回る

17日のニューヨーク外国為替市場でドル円は4日続落。終値は104.19円と前営業日NY終値(104.58円)と比べて39銭程度のドル安水準だった。10月米小売売上高が予想を下回る結果となったことが分かると米長期金利の低下とともに104.07円まで値を下げた。もっとも、節目の104円を前に下げ止まると、その後は104.20円を挟んだもみ合いとなるなどNY時間に限れば値幅は狭かった。

なお、パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長が「目先の経済回復には下方向のリスク」「経済は依然として財政・金融政策を必要としている」などと述べたが、相場への影響はほとんど見られなかった。

ユーロドルは4日続伸。終値は1.1862ドルと前営業日NY終値(1.1852ドル)と比べて0.0010ドル程度のユーロ高水準だった。弱い米小売統計を受けてドル安が進んだことを支えに一時1.1894ドルまで上昇した。ただ、1.1900ドルまで断続的に観測されている売りオーダーをこなせず、一巡後はユーロ円の下落につれた面もあり1.1850ドル台まで上値を切り下げた。

ユーロ円は反落。終値は123.60円と前営業日NY終値(123.95円)と比べて35銭程度のユーロ安水準だった。ダウ平均が430ドル超下げたことを背景に一時123.52円まで下げた。その後に株価は下げ幅を縮めたが戻りは鈍かった。

トルコリラ円は底堅い。欧州時間には13.37円まで下げる場面があったが、NY市場に入ると13.60円付近まで切り返した。エルバン新トルコ財務相が「トルコ中銀は完全に独立している」と発言したことがサポートとなった。

【本日の東京為替見通し】第2次コロナ相場を模索する展開に、米国のウイルス進行が厳しさを増す

本日のドル円は上値が重い。新型コロナウイルスの第1次感染の時に起こった、株式市場の下落によるドルの買い戻し相場は、昨日の値動きを見ると終わったように思える。米金利の上下で振られる展開が今後も続くだろうが、米連邦準備理事会(FRB)の金融政策に大きな変更が直近で起こることも考えにくく、市場は第2次コロナ相場の展開を探る状況が続くようだ。

ウイルスに関してはワクチン開発期待での為替の動きは、一昨日ドル円が105円まで上昇後は全く買いが追随しなかったことを考えると、今後は実用化がすぐにでも起きない限りはワクチン・ネタでドル買いを仕掛けるとすぐに梯子を外されることになるだろう。むしろ、警戒しなくてはならないのは米国の感染第2波の影響になる。昨日ペンス米副大統領の率いるウイルス対策チームはウイルス感染拡大を警告しているが、州単位の規制にとどまり欧州ほど厳しいものではない。この後に米国最大の国民移動となる感謝祭を前にしていることで、米国の医療崩壊の可能性もあり得る。昨日の米国でのウイルスによる入院者数も過去最大を記録している。また、早朝にバイデン氏のウイルス対策チームが病床数や医療備蓄などは、まだまったく知らされていない(情報の引継ぎがない)と発表しているように、次期政権樹立後もウイルス対策には苦心することになりそうだ。

欧州通貨は比較的狭いレンジでの取引が続いているが、嵐の前の静けさの可能性もある。昨日一部大衆紙で、来週英国と欧州連合(EU)との交渉が進展する可能性があるとのことを示唆するフロスト英・欧州連合(EU)担当交渉官の発言を掲載したこともあり、若干合意に対する楽観的な考えが市場では強い。しかしながら、漁業権の問題や北アイルランドの扱いなど、英国の妥協がなく合意に達するかは非常に不透明なままだ。明日19日に行われるEU会合(ビデオカンファレンス)までに、どのような進展があるのか注目される。

なお、経済指標では東京時間では16時に英国から10月消費者物価指数(CPI)や10月卸売物価指数(PPI)など複数の指標が発表される。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

008:50 ◎ 10月貿易統計(通関ベース、予想:季節調整前2500億円の黒字、季節調整済1174億円の黒字)

<海外>

- 08:40 ◎ ロウ豪準備銀行（RBA）総裁、パネルディスカッションに参加
- 16:00 ◎ 10月英消費者物価指数（CPI、予想：前月比▲0.1%／前年比0.6%）
 - ◎ 10月英CPIコア指数（予想：前年比1.3%）
 - ◇ 10月英小売物価指数（RPI、予想：前月比▲0.1%／前年比1.2%）
 - ◎ 10月英卸売物価指数（PPI、食品とエネルギーを除くコア指数、予想：前年比0.4%）
- 19:00 ☆ 10月ユーロ圏消費者物価指数（HICP）改定値（予想：前年比▲0.3%）
- 19:00 ☆ 10月ユーロ圏HICPコア改定値（予想：前年比0.2%）
- 19:30 ◎ ホールデン英中銀金融政策委員会（MPC）委員、講演
- 20:00 ◇ 9月南アフリカ小売売上高（予想：前年同月比▲2.3%）
- 21:00 ◇ MBA住宅ローン申請指数
- 22:30 ◎ 10月米住宅着工件数（予想：146.0万件、前月比3.2%）
 - ◎ 10月米建設許可件数（予想：156.0万件、前月比1.5%）
- 22:30 ◎ 10月カナダCPI（予想：前月比0.2%／前年比0.4%）
 - ◇ EIA週間在庫統計
- 19日 00:30 ◎ ベイリー英中銀（BOE）総裁、講演
- 19日 02:15 ◎ ウィリアムズ米ニューヨーク連銀総裁、講演
- 19日 03:00 ◎ 米財務省、20年債入札
- 19日 03:20 ◎ ブラード米セントルイス連銀総裁、講演

19日

<国内>

- 08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース）

<海外>

- 08:00 ◎ カプラン米ダラス連銀総裁、パネルディスカッションに参加
- 09:00 ◎ ポスティック米アトランタ連銀総裁、イベントに参加
- 09:30 ◎ 10月豪雇用統計（失業率／新規雇用者数）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

17日 05:27 バイデン米民主党大統領候補
「州や地方自治体への資金提供が急務」
「事業を開けるように、新型コロナを管理する努力を惜しまない」
「国家戦略を中心に国を結集することに合意」
「インフラの近代化が必要」
「企業が公平な取り分を支払うことで、公平な税制を実現する」
「感謝祭の集まりは人数を限定し、ソーシャルディスタンスを維持し、マスクを着用すべき」
「議会ではできるだけ早く追加刺激策を可決すべき」

17日 16:30 エルバン・トルコ財務相
「トルコは2022-23年にかけて持続的な成長軌道に乗る見込み」
「トルコの成長路線は、インフレとの戦いと矛盾しない」

18日 00:48
「トルコ中銀は完全に独立している」

17日 19:31 英・欧通商交渉担当者
「早ければ来週の合意成立を目指す」

17日 20:07 ビスコ伊中銀総裁
「刺激策を早期に解除すれば、景気回復を妨げる恐れ」

17日 22:45 ポスティック米アトランタ連銀総裁
「第4四半期の回復が鈍化しても驚かない」
「小売売上高の悪化が何か深いものを説明しているのかわかるかを見る」
「FEDの手段はまだ可能性を残している」
「FRBは債券買い増しの必要性を検討」

17日 23:48 スタージョン・スコットランド国民党党首(スコットランド行政府首相)
「グラスゴーを含む11の地区でコロナ制限レベルを金曜日から最大に引き上げる」

18日 00:21 マコーネル米共和党上院議員
「上院は追加コロナ対策を依然として可決させたい」
「ここ数日で議会が超党派の資金調達パッケージに合意できるか分かる」

18日 00:27 アラブ首長国連邦(UAE)エネルギー相
「石油輸出国機構(OPEC)プラスの全ての国が完全な減産を履行すべき」
「追加減産の延長や変更などの話は完全なるコミットメントの後」

18日 01:14 ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁
「PEPPやTLTROは効果的」
「金融状況が安定していることを確認しなければいけない」
「新型コロナ第2波は2021年の経済に影響を与える」
「ECBは措置の再調整を準備している」
「ワクチンはECBの予測を大きく変えるものではない」
「危機が金融セクターに波及しないようにしなければならない」

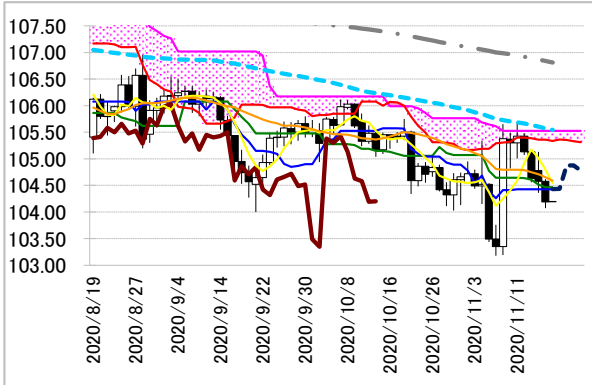
18日 02:15 ラムステン BOE(イングランド銀行)副総裁
「インフレ目標達成のために必要な追加措置を講じる準備ができています」
「コロナワクチンは回復力を強化し、長期的なリスクの一部を軽減する可能性」
「ワクチンニュースには勇気づけられるが、予測を上方修正できるかは明確ではない」

18日 03:20 パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長
「5-6月からの回復は予想よりも強い」
「目先の経済回復には下方方向のリスク」
「経済は依然として財政・金融政策を必要としている」
「バランスシートの正常化を考えるのは時期尚早」
「FRBの緊急融資制度を終了する時ではない」

18日 04:35 マックレム・カナダ銀行(BOC)総裁
「気候変動による脅威を克服するため、世界はより速く行動する必要があります」
「気候変動の問題はカナダ企業の利益に関わる」
「金融機関が気候変動リスクに関するシナリオを分析することを望む」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

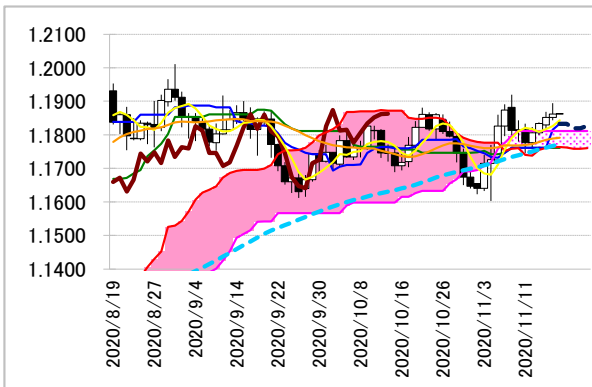


<ドル円=目先のサポート転換線を下回る>

陰線引け。下げ渋りが期待された一目均衡表・転換線 104.43 円を割り込んだ。

転換線前後で戻りが限定されそうだが、現状からすれば同線は明日から水準を切り上げる公算。相場の下押しを現水準までにとどめることができれば、転換線とともにいったん水準を回復することが想定できる。

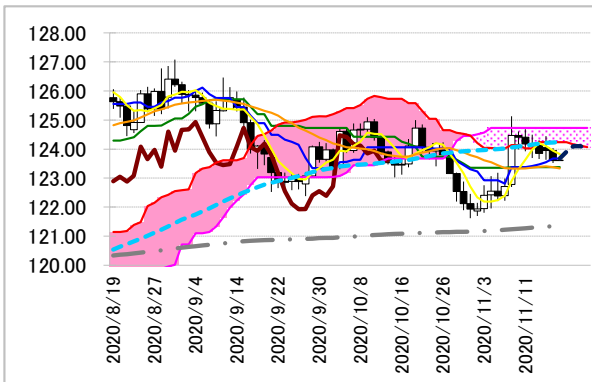
レジスタンス 2	105.13(11/16 高値)
レジスタンス 1	104.59(21 日移動平均線)
前日終値	104.19
サポート 1	103.59(11/16 反発幅の下方倍返し)



<ユーロドル=直近高値が控える 1.19ドル台を前に伸び悩む>

上影小陽線引け。一目均衡表・雲の上へ浮上した一目・転換線のサポートを下値に控え、一時 1.1894 ドルまで上昇した。しかし目先の上値の節目となる 9 日高値 1.1920 ドルも位置する 1.19 ドル台乗せを前に伸び悩んだ。このまま上値を伸ばせないと、転換線は現水準 1.1833 ドルで頭打ちとなる。下押しをサポートする水準の切り下がりとともに、下値を探る展開となるだろう。

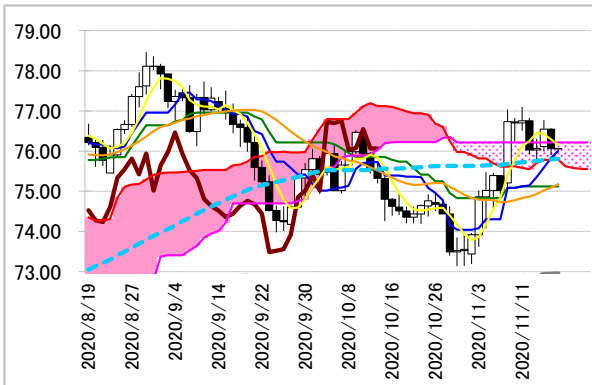
レジスタンス 1	1.1920(11/9 高値)
前日終値	1.1862
サポート 1	1.1812(日足一目均衡表・雲の上限)



<ユーロ円=転換線付近で底堅さ示すか>

陰線引け。一目均衡表・転換線 123.68 円を割り込みかけている。上昇傾向の同線を下回る水準では底堅さを示すとみる。一目・基準線 123.38 円もサポートなり、押し目が深めとなっても 123 円前後だろう。そこで下げ渋れず下落に勢いがつくと、9 日の大陽線の値幅を帳消しにし、さらにもう少し下値を探ることになるか。

レジスタンス 1	124.03(11/17 高値)
前日終値	123.60
サポート 1	122.96(10/30-11/9 上昇幅の 61.8%押し)



<豪ドル円=雲の上への再浮上を期待>

下影陰線引け。伸び悩み、一目均衡表・雲の上限 76.22 円を下回った。安値は 75.90 円と、75.80 円付近に位置した一目・転換線と 90 日移動平均線のサポートを前に下げ渋った。上昇傾向の転換線とともに雲の上へ再浮上する展開を期待するが、しくじっても横ばいの 90 日線付近で下押しの流れは緩和するとみる。

レジスタンス 1	76.57(11/17 高値)
前日終値	76.06
サポート 1	75.51(ピボット・サポート 2)

